

JI 監督委員会 (JISC) 第 27 回会合出席報告 (速報)

I. JI 監督委員会第 27 回会合 (JISC27) 概要

2011 年12月2日

社団法人海外環境協力センター(OECC)

1. 日時: 2011 年11月24日(木)~25日(金)
2. 場所: モーゼス・マヒダ・スタジアム(南アフリカ・ダーバン)
3. 議題:
 1. 委員会メンバーシップについて
 2. 議題の採択
 3. ワークプラン
 - a) 独立組織(IE)の認定
 - b) 有効性の決定および検証に関する報告書
 - c) 管理計画と財政状況
 4. その他
 - e) 利害関係者、政府および非政府組織との関係
 - f) その他
 5. 閉会

<ワークプラン>

【独立組織(IE)の認定】

- ・ IE認定状況の変更等についての報告はなかった(当初10月中旬に開催予定であった第27回JI認定パネル(JI-AP17)が経費削減等を理由に見送られたため)。
- ・ 次回JI-AP27は2012年以降に開催予定で、CDM認定パネル(CDM-AP)との合同セッションもあわせて実施される見通し。

【有効性の決定および検証に関する報告書】

- ・ UNFCCC事務局(以下:事務局)より提案された、JIにおいて「Prior Consideration」規定を導入した場合のガイドライン案(表1参照:JISC26において作成が要請されたもの)の内容に関して今後留意する旨報告。加えて、「Prior Consideration」の証明(登録申請中、または実施中のJIプロジェクトがJIとして妥当であると判断できるかどうか)は重要であるという認識とともに、(今回事務局より提案された内容を承認する代わりに)JIガイドライン(「Decision 9/CMP.1」パラグラフ8)の最初のレビュー作業において同アプローチも考慮することに合意した。
- ・ JIプロジェクト開始後にトラック1からトラック2(またはその逆)への切り替えを可能とした場合の規定案について事務局による提案内容を今後議論していく旨報告。同課題に関連して、両トラック間で共通の承認プロセスを設けた場合の可能性ならびに、別トラックへの移行によってトラックごとに2重の支払い義務が発生す



る問題についての対策案について課題を残した。

- ・ 「有効性の決定および検証に関する新たな審査基準 (“Procedures for appraisals of determinations under the verification procedure under the JISC”）」の改訂(もともと有効性の決定および検証過程で必要としていたJISC委員メンバー2名による審査を、2011年8月から新たに外部専門家2名による実施に変更)に対して事務局より作成された専門家用審査書 (Version0.1)を承認。
- ・ Track2プロセスにおいて、282件のPDD、1件のPoA-DD、ならびに39件の有効性決定報告書が UNFCCC-JI ウェブサイトに公開され、決定報告書のうち、1件がレビュー要請、1件が不承認となったことを報告。同様にトラック2プロセスにおいて、56 件の検証報告書がUNFCCC-JI ウェブサイトに公開され、そのうち55件が承認済みとなったことを報告。
- ・ Track1 プロセスにおいて、307 件のプロジェクトがUNFCCC-JI ウェブサイトに公開され、そのうち300 件がITL に登録されたことを報告。

【管理計画と財政状況】

- ・ 2011年～2013年の期間における作業計画 (Work plan) について、次回第28回JI監督委員会にて作業案を提出するよう事務局に要請。
- ・ 財政状況について、今年1 月1 日～10月末までの期間における活動収入が合計239万6,620米ドルに達し、そのうちTrack1 から93 万3,790 米ドル、Track2から89 万5,873 米ドルとなることが報告された¹。

<その他>

【利害関係者、政府および非政府組織との関係】

- ・ 指定窓口機関フォーラム(Designated Focal Point Forum)を11月28日に南アフリカ・ダーバンで開催する旨報告。同フォーラムでは、新JIガイドラインおよび2012年における作業課題について議論する予定。
- ・ ゲストスピーカーのMartin Enderlin 氏 (DOE/AIE 代表)から、「Prior Consideration」を今後実施される新規プロジェクトのみに適用するよう提案がなされた。
- ・ 「Prior Consideration」については、別のゲストスピーカーであるLennard de Klerk氏 (JIAG社代表)から、JIの追加性は現行の規定で十分審査されているとして、新たにそのような規定の導入が必要ではないとの意見が出された。一方で、万が一「Prior Consideration」を導入する場合、該当プロジェクトは、2013年1月、またはそれ以降に開始されたものとし、すでに実施中のプロジェクトを対象とするべきではないとの考えを示した。

¹財政状況(2011年11月末時点)(事務局発表資料“Status of Resources”より抜粋)

| | | |
|-------------|----------------|------------|
| 収入 | 2010年からの繰越金 | 144,270 |
| | 各国からの拠出金(2011) | 22,574 |
| | 認定申請からの収入 | 933,790 |
| | 合計 | 2,396,634 |
| 支出 | 管理予算(2011) | -1,137,169 |
| 収入-支出(活動収入) | | 1,259,465 |

【その他】

<その他>

- ・ 今後のJI運営において、JISCとJI参加諸国とのより一層の連携が重要であると強調。その上で、JIプロジェクトの実施状況ならびに運営体制に対する理解促進を目的としたセミナーの実施、またはフォトコンテストのような交流の場の提供作りなど方法案を提案するよう事務局に要請。あわせて、市場動向ならびに関連政策の影響を注視していくことは重要だとして、それらの情報提供も引き続き要請した。
- ・ 次回JISC28会合は2012年3月22日～23日にドイツのボンにて開催予定。

4. 出席者

- ・20名中、9人が出席、11名が欠席。

*太字が出席委員

| 地域 | 委員 (Member) | 代理委員 (Alternate Member) |
|----------------------|---|---|
| 附属書I 国 (附属書I 国) | Mr. Wolfgang Seidel (ドイツ/ドイツ排出量取引協会JI セクション長) *副議長* | Mr. Olle Björk* (スウェーデン/環境省) |
| 附属書I 国 (附属書I 国) | Mr. Benoît Leguet (フランス/預金供託公庫(Caisse des dépôts et consignations)) | Mr. Anton Beck (デンマーク/エネルギー庁) |
| 非附属書I 国 (非附属書I 国) | Mr. Carlos Fuller* (ベリーズ/カリブ海コミュニティ気候変動センター) | Ms. Carola Borja (エクアドル/環境省) |
| 非附属書I 国 (非附属書I 国) | Mr. Denis Sombi Lansana (シエラレオネ/気象庁気象サービス長) | Mr. Evans Davie Niewa (マラウイ/環境省) |
| 附属書I 国 (附属書I 国) | Mr. Evgeny Sokolov (ロシア/Carbon Trade and Finance) | Mr. Hiroki Kudo (工藤拓毅氏) (日本/日本エネルギー経済研究所) |
| 非附属書I 国 (非附属書I 国) | Mr. Muhammed Quamrul Chowdhury (バングラデシュ/バングラデシュ環境ジャーナリストフォーラム) *議長* | Mr. Momin Agha (パキスタン/環境省気候変動副長官) |
| 非附属書I 国 (小島嶼国地域) | Mr. Andrew Yatilman (ミクロネシア/環境・緊急災害管理局) | Mr. Derrick Oderson* (バルバドス/住宅・国土・環境省) |
| 附属書I 国 (経済移行諸国) | Ms. Agnieszka Galan (ポーランド/国家排出量取引スキーム局) | Mr. Oleg Pluzhnikov* (ロシア/経済発展省) |

| | | |
|--------------------|--|---|
| 附属書I 国 (経済移行諸国) | Mr. Mykhailo Chyzenko (ウクライナ／環境投資庁京都議定書 柔軟性メカニズム課次長) | Ms. Milya Dimitrova (ブルガリア／環境・水省) |
| 附属書I 国 (経済移行諸国) | Ms. Irina Voitekhovitch (ベラルーシ／ Belinvestenergosberezhenie) | Ms. Miriana Roman (ルーマニア／環境省) |

オブザーバー参加者：2名（1日目）、2名（2日目）

以上

(文責：(社) 海外環境協力センター (OECC) 古宮祐子)